



平成 30 年 12 月 18 日

各 位

会社名 株式会社メディネット
代表者名 代表取締役会長兼社長 木村 佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問合せ先 経営管理部長 落合 雅三
(TEL 045-478-0041)

株式会社 JUNTEN BIO と再生医療等製品の製造技術の開発委受託契約締結のお知らせ

当社はこの度、株式会社 JUNTEN BIO(東京都中央区日本橋本町二丁目3番 11 号、代表取締役・河南雅成氏、以下「JUNTEN BIO」)との間で、JUNTEN BIO が学校法人順天堂(以下「順天堂」)と共同開発中の臓器移植後の拒絶反応の抑制を目的とした再生医療等製品(以下「本製品」)の製造技術の開発委受託契約(以下「本契約」)を締結いたしましたのでお知らせします。

当社は、これまで蓄積してきた細胞加工技術を用い、本契約下で本製品の製造工程などの開発を行い、JUNTEN BIO による本製品の開発・製品化の加速に寄与することになります。

現在の臓器移植では、臓器移植を受けた患者自身の体内免疫が、新しく提供された移植臓器を攻撃してしまう拒絶反応を防ぐために、免疫抑制剤を服用することが一般的な治療方法となっています。一方で免疫抑制剤は、臓器移植を受けた患者自身がもともと有していた免疫を全体的に抑えてしまうため、長期間の服用で細菌やウイルスなどに対する抵抗力が弱くなり、重い感染症などに罹患しやすくなります。そのため免疫抑制剤の服用は、多くは一生の間、患者の容体に合わせて、きめ細かく投与量を調節しながら、拒絶反応をコントロールしていく必要があります。

今回、順天堂大学大学院医学研究科アトピー疾患研究センターで確立された免疫寛容を誘導する細胞加工技術は、これまで腎移植、肝移植を受けた患者を対象として行われた臨床研究に用いられています。当該臨床研究では、免疫抑制剤の投与量の低減もしくは服用の必要がなくなるという事例が認められており、臓器移植がより身近な医療につながる日本発の技術として、世界中から注目されています。当該技術につきましては、この研究成果の事業化を加速させるために設立された JUNTEN BIO が、順天堂と共同研究開発を進めています。

本契約締結を契機に、企業などからの再生医療等製品の開発・製造を行う CDMO 事業をさらに拡大してまいります。

【今後の影響】

本件の 2019 年 9 月期業績に与える影響は軽微と見込んでおります。

以上